

健康教育講座  
緑内障—早期発見をめざして—

名古屋市立大学大学院医学研究科 視覚科学  
講師 野崎 実穂

緑内障という病気を、みなさんご存知だと思います。では、緑内障ときくと、どう思われるでしょうか？かなり多くの方が、『失明にいたる恐ろしい病気』と思っているのではないのでしょうか。

たしかに緑内障は、現在我が国における成人の失明原因疾患の第一位になっています。また、緑内障に罹患している患者さんの数も、以前の調査よりも増えており、最近行われた大規模な調査では40歳以上の約5%と報告されました。またこの調査で明らかになったのは、緑内障があるにもかかわらず、これに気付かずに過ごしている人が大勢いるということでした。

では緑内障とはどういう病気なのでしょう？緑内障とは、視神経乳頭に緑内障に特有の異常があること、緑内障に特徴的な視野変化があること、このどちらかあるいは両方の所見があり、眼圧を下げることにより、進行を阻止できる病気と定義されています。眼圧は、眼球内圧のことで、以前は眼圧が高い人が緑内障になると信じられてきました。しかし正常の眼圧値というのは、欧米のデータをもとに、21mmHg以下とされてきましたが、大規模な調査により、日本人の平均眼圧は15mmHg前後であり、上限は19-20mmHgということもわかりました。実際、眼圧値が正常範囲内にあっても緑内障になる場合も多く、正常眼圧緑内障といわれています。特に日本人にはこの正常眼圧緑内障が多いといわれており、大規模な調査でも40歳以上の3.6%がこのタイプの緑内障と報告されました。

以上のことから、眼圧の値だけでは、緑内障かどうかは診断できないことがおわかりいただけると思います。緑内障の診断で特に重要なのは、やはり視神経乳頭の所見と視野検査といえます。

また、緑内障は、眼圧を下げることにより病気の進行が防止できる病気です。ただし、ひとたび障害されてしまった視神経は、残念ながら回復しません。しかし、早期に緑内障を発見できれば、まだ視神経の障害が軽いうちに手を打つことができれば、失明に至る危険性はぐっと少なくなります。

最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような『緑内障＝失明』という概念は古くなりつつあります。現代医学を駆使しても失明から救えない極めて難治性の緑内障が存在することも事実ですが、一般に、早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができる病気であることは間違いありません。

ここでは、緑内障という病気、特に正常眼圧緑内障について、また最近の診断と治療の進歩、早期発見のための取り組みについて、できるだけわかりやすくご紹介したいと思います。